

最先端研究開発支援プログラムと既存プロジェクトとの関係について

最先端研究開発支援プログラム（以下「最先端プログラム」という。）に採択された中心研究者及び共同提案者は、平成 21 年度中に既存事業を整理し、重複部分については、最先端プログラムによる研究開発に一本化することが求められたことから、本件に関しては、以下のとおり対応することとする。

1. 大野英男教授（東北大学）関係

○概要

最先端プログラム：省エネルギー・スピントロニクス論理集積回路の研究開発

既存予算：高機能・超低消費電力コンピューティングのためのデバイス・システム基盤技術の研究開発（平成 19～23 年度）

○対応

- ・最先端プログラムと既存予算のサブテーマ「次世代高機能・低消費電力スピンドevice基盤技術の開発」は一本化する。（別図参考）
- ・最先端プログラムと既存予算のサブテーマ「超高速大容量ストレージシステムの開発」は以下のとおり研究内容が異なることから、平成 22 年度より、サブテーマ「超高速大容量ストレージシステムの開発」の研究代表者である「村岡教授（東北大学）」を研究代表者として、研究を継続する。
- ・ナノスピン磁性材料開発や超微細加工の基盤技術の共用化など、それぞれの研究開発の効率化は引き続き実施する。

プログラム	最先端プログラム	既存予算	
		サブテーマ：「次世代高機能・低消費電力スピンドevice基盤技術の開発」	サブテーマ：「超高速大容量ストレージシステムの開発」
ポジション	中心研究者	研究代表者	
		サブテーマの代表研究者	—
研究内容（要旨）	〈論理集積回路〉スピントロニクス素子を用いた半導体論理集積回路の開発等	〈論理集積回路〉スピントロニクスによる集積回路及びそのための材料開発	〈ストレージシステム〉 <u>ストレージシステム（外部記憶装置）</u> の大容量・高速化のための研究開発

2. 喜連川優教授（東京大学）関係

○概要

最先端プログラム：超巨大データベース時代に向けた最高速データベースエンジンの開発と当該エンジンを核とする戦略的サービスの実証・評価

既存予算：革新的実行原理に基づく超高速データベース基盤ソフトウェアの開発
(平成 20～24 年度)

○対応

- ・ 最先端プログラムに一本化する。

プログラム	最先端プログラム	超高速データベース基盤 ソフトウェアの開発
ポジション	中心研究者	研究代表者
研究内容 (要旨)	<u>大規模データベース解析を可能とする最高速データベースソフトウェアの開発、有望なサービスを用いた実証等</u>	<u>超高性能データベースソフトウェアの設計・実装・実証</u>